

# 県民の皆様と一緒に鹿児島県の今と未来をつくる

新年、明けましておめでとうございます。

県民の皆様には、日頃から、県政の推進に多大な御支援・御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、世界中で猛威を振るっている「新型コロナウイルス感染症」につきましては、徹底した手洗いやマスクの着用、人と人との距離の確保、感染リスクが高まる「5つの場面」への注意など、感染拡大の防止に向けて御協力をいただいていることに、心から感謝申し上げます。なかでも、このような厳しい状況・環境で、人命を守るため、現場の最前線で献身的な努力をされている医師・看護師等の医療関係の皆様をはじめ、患者搬送に多大なる御協力をいただいている海上保安庁、自衛隊及び消防機関の皆様など、感染症対応に御協力いただいている全ての方々に、心から敬意を表します。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、飲食店や旅館・ホテルなどの観光関連産業や交通産業、イベント関連産業、農林水産業など、本県の経済は大きな影響を受けております。

私は、昨年7月に知事に就任して以降、感染防止対策をしっかりと進め、医療提供体制を確保することで、県民の皆様への安心・安全と、経済・社会活動の両立を図られるよう、全力を挙げて取り組んでおります。

今後の感染状況など、先行きが不透明で、確実な見通しを持つことは困難であるものの、今後の県勢発展の基盤をしっかりと作っていくため、本県の基幹産業である農林水産業、観光関連産業をはじめとする産業の更なる振興に取り組むとともに、地域を支える人材や新たな未来を切り拓いていく人材の確保・育成、技術力の高い製造業など若者が働く場としての新たな産業の創出などに取り組んでまいります。

昨年は、7月の豪雨災害、台風第10号により住宅をはじめ、道路や河川、農作物などに多大な被害が発生しました。避難所の設置・運営に当たっては、各市町村において、感染防止対策にも取り組んでいたところであり、改めて、不断の防災・減災対策の重要性に思いを致した年でした。防災等については、県土の強靱化を計画的に行うとともに、自然災害防止や減災対策の充実に取り組んでまいります。

一方で、明るい話題もありました。

昨年3月には、平成27年から復元に向け官民一体となって建設を進めていた「鶴丸城御楼門」が完成し、鹿児島県の新しいシンボルとして現代によりみがありました。また、8月には薩摩川内市の甕島列島の中甕島と下甕島をつなぐ甕大橋が開通し、島民の方々の念願であった「甕はひとつ」が実現しました。この供用により甕島の陸上交通ネットワークが形成され、医療体制や災害応援体制の向上、観光業や水産業の振興など地域の発展に寄与するものと期待しております。

さらに、昨年開催予定で、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となった「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」が2023年に開催されることが決定しました。この決定に当たっては、日本スポーツ協会、スポーツ庁、また、佐賀県をはじめとする後援県の皆様にも、多大な御理解・御協力をいただいたものと考えております。県民の皆様はもとより、全国の皆様にとっても素晴らしい、思い出に残る希望に満ちた大会となるよう、着実に準備を進めてまいります。

同様に延期となっていた奄美の世界自然遺産の登録の可否が審議される「ユネスコ世界遺産委員会」が今年6月から7月に開催されることになりました。登録が実現すると、屋久島と合わせて2つの自然遺産を有する全国唯一の県となります。国、沖縄県、地元市町村等との連携をさらに密にしながら、登録に向け、着実に取り組んでまいります。

私としましては、こうした様々な取組を通じて、鹿児島県の「稼ぐ力」の向上に努めるとともに、結婚・出産・子育てのしやすい環境の整備や、高齢者が健やかで生きがいを持てる社会の形成などに取り組み、これらを基盤として、高齢者や女性、障害者、子ども達、あらゆる方々が生き生きと暮らし、活躍していける鹿児島をつくってまいります。

現在、我が国や本県を取り巻く環境は、本格的な人口減少や少子高齢化の進行、経済のグローバル化の進展、地域間競争の激化、技術革新の急速な進展などにより、大きな変革期を迎えております。

今後とも、時代の変化に的確に対応しながら、「県民の皆様と一緒に鹿児島県の今と未来をつくる」ということを基本として、「誠実に」、「着実に」県政の推進に全力を挙げて取り組んでまいりますので、皆様の御支援・御協力をお願いいたします。

終わりに、県民の皆様にとりまして、新しい年が輝かしく幸多い一年でありますよう、祈念申し上げます。



令和三年 元旦

鹿児島県知事 塩田 康一